



本年最初の TTAK 新聞になります。体調はいかがでしょう？  
本年も T・TAK メンバー一同、頑張って地域医療に取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

## 熊本地震の災害支援活動に行かれた、 薬剤師のお二人にお伺いしました。

診療技術部 小野 達也 西田 英之

2016 年 4 月 14 日、16 日に 2 度、熊本県において最大震度 7 の地震が発生しました。  
1 度目（前震）の余震が続く中での 2 度目（本震）が発生し、前震では被害が少なかった熊本市内も多大な被害が起こってしまいました。

私たち自身も阪神・淡路大震災を経験し、この時をはじめ新潟中越地震、東日本大震災において医療支援活動を行ってきましたが、備える事の重要性から日本集団災害医学会主催の PhDLS (Pharmacy Disaster Life Support) 研修を受講し備えてきた矢先に熊本地震が起こりました。

今回の熊本地震では、小野が H28.4.26~4.30 の 5 日間、西田が H28.5.6~5.8 の 3 日間、JMAT 兵庫（JMAT=災害の亜急性期[発災後 72 時間~概ね 3 か月位まで]に活動する災害医療チーム）の薬剤師として熊本県の益城町保健福祉センターに入りました。JMAT 兵庫の構成メンバーは医師 3 名、歯科医師 1 名、薬剤師 1 名、看護師 2 名、調整員 2 名の計 9 名で現地で集合しました。



災害において状況は絶えず変化し溢れる情報から迅速に事象を決断していかなければなりません。他のスタッフの活動も把握しながら活動を行います。  
熊本県薬剤師会・病院薬剤師会、熊本大学病院薬剤部、熊本県医療救護調整本部への訪問や、益城町医療全体ミーティング、モバイルファーマシー（車載式移動調剤所）付き薬剤師とのミーティング、栄養士、保健師をはじめ、今回は歯科医師、歯科技工士、リハビリテーションなども支援活動に参加しており、その方々とのミーティングも積極的に行い情報収集と情報提供を行いました。

この他、益城町総合体育館、テント村、動物テント村等を実際に巡回し、被災者の状況調査を行ったり、環境調査（汚水マンホールからの漏水等）や避難所・救護所の室内の二酸化炭素濃度測定など公衆衛生に関する分野でも活動を行いました。



災害時の亜急性期では、行政に働きかけ縦割り行政を生まぬよう配慮しながら、組織としての自分の立ち位置と行動に自覚を持ち、積極的に多職種・各チーム間の連携・コミュニケーションをとることで効果的な活動が行えると強く感じました。



地震に関して日本は活動期に入っており、南海トラフ地震は今後 30 年で発生率が 70%ともいわれます。常に備えることを怠らず、実際に災害が起こったときには微力ながら今後も災害医療に貢献していきたいと思えます。

お忙しいところお話いただき、本当にありがとうございました。

今後も、IHI播磨病院の各部門・先生・スタッフの紹介をします。

本年度もスタッフ一同頑張ってください！（TTAK君も頑張ります。）

暖かいお心で、ご愛顧のほどよろしく願いいたします。

バックナンバーは 病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp> からご覧いただけます。

by : T. O & C. T